

豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する

条例アンケート

実施期間：9月8日（水）～9月15日（水）

回答者数：187人

【1】この条例について、全体を通しての読みやすさはいかがですか？

読みやすい	22
どちらかといえば読みやすい	95
どちらともいえない	48
どちらかといえば読みにくい	15
読みにくい	7

【2】山村において価値があるもの、大事だと思うものを選択してください。

（複数回答可）

田畑、川、空気、水などの自然環境	169
米や野菜などの豊かな農産物	112
地域資源を生かして創出される生業や継承される生業	86
森林の水源かん養機能（洪水緩和、水質浄化の機能） を守ること	73
自然の中で子育てができること	72
伝統的な祭りや文化	68
都市とは異なる新しいライフスタイルの実現	60
人と人との深いつながり	45
人の手により管理された自然の景観	44
その他	6

【3】第5条（市民の役割）と6条（山村住民の役割）の内容はわかりやすいですか？

わかりやすい	32
どちらかといえばわかりやすい	91
どちらともいえない	51
どちらかといえばわかりにくい	9
わかりにくい	4

【4】 その他ご意見があれば教えてください。

※いただいたご意見については、文章がわかりやすくなるように整理しているほか、文体の統一、誤字の修正等をさせていただいております。

基本的な考え方は理解するが、条例を制定するだけでは効果や意義が見えづらいため、具体的な施策の立案に期待する。
自然に触れる機会や暮らしの体験など都市部と山村地域との交流を深める機会がもっと必要。
都市と山村の交流を行うことは大事であるが、環境破壊を起こすことなく、実現できるとよい。
山村地域の豊かな自然環境を未来に向けて守っていくことはとても大切なことであり、市民、特に子どもたちにそのこと根付かせることが必要。
第6条2項について、山林所有者は苦労もあると思うが、防災の観点でも山村地域は重要な役割を担っていることから放置しないようにするべき。
第6条2項について、必要な視点であるが広い自然環境や空き家の維持管理は大変であり、山村住民の負担は大きいと感じる。例えば、都市の人に手を借りる仕組みがあってもよいのではないか。
施策において、総花的ではなく、取捨選択をしっかりと行い、より戦略的な計画に落とし込んでほしい。
移住促進及び転出抑制に向けた環境づくり(住居、働く場、教育)に取り組んでほしい。
第2条で定義する「山村の価値」を、まずは子どもたちに感じてもらうことが必要。山村地域の子どもだけではなく、全市の小中学校の授業に取り入れてほしい。また、山村地域では、一律ではない特色を生かした魅力ある教育を進めてほしい。
有機農業の推進など新規就農者を増やす新たな制度があるとよい。耕作放棄地が増えており、再生により雇用の創出が可能。
小中高生の登校、高齢者の通院や買い物、都市住民の交流など山村地域における移動手段の確保は大きな問題。利用しやすい料金設定、本数の増加など交通機関の充実を図ってほしい。

子育ての合間に働くことができる場があるとよい。住まいの近隣だとなおよい。

獣害被害をもたらす野生動物の対策を見直し、自然との共生を図ってほしい。